



ひるの星

No. 244

もくじ	
アブドル・バハの言葉 <small>ことば</small>	2
奉仕 <small>ほうじ</small>	3
クリスマスって、なあに?	6
クイズ	11
あやつり人形 <small>にんぎょう</small>	12
ぬり絵	14
みんなの写真 <small>しゃしん</small>	15
保護者のページ <small>ほごしやの</small>	16

ONE NESS

ひと よ かみ よ
人の世を神の世と

か
変えるまで

ひと
あらゆる人に

しんせつ つ
親切を尽くして、

ひと よ
その人が良くなるように

ねがう
願うのは、

ぎむ
あなたの義務です。

アブドル・バハ

O Son of Being! Love Me
that I may love thee. If
thou lovest me not, My love
can in no wise reach thee. Know
thou a servant. Baha'ullah

ほうし 奉仕

おきなわ こども ろうじん
沖縄の5人の子供たちが老人ホ

ームをたず訪ねました。そこはりょうしん
親の

ゆうじん けいえい こども
友人が経営していました。子供たちは

そこのとしよお年寄りにあやつり人形
の

しばい み
芝居を見せることになっていました。

はだいろ ち が にんぎょう なかよ おな むら く
肌色の違う人形たちがどうやったら仲良く同じ村で暮らせるようになるかを

み しばい いっしゅうかんまえ あか あお きいろ
見せる芝居でした。その一週間前までには、みんながんばって赤や青、黄色や

むらさき けいと つか にんぎょう つく いっしょうけんめいしばい れんしゅう
紫の毛糸を使って人形を作りあげました。そして一生懸命芝居の練習をし
てきました。

ステージにたつてしばい はじ とき とつぜん
ステージに立って芝居を始めようとした時、突然アニサが

「いやだ！アニサはこんなにたくさんのおまへの前ではできない！」そう言いなが

らにんぎょう なげ な
ら人形を投げだして、泣きそうになりました。

「なんてこった！」とさけきながらリアズがみぎて かお おお かあ
右手で顔を覆いました。お母さんが、

アニサをだよ抱き寄せてどうしたのかとたずねました。

アニサはこごえ こた
アニサは小声で答えました。

「まちが
間違えたら、どうするの？こわい！」

リアズがからかうようにい言いました。





「決まっているじゃないか。みんな笑ってしまうよ。そして
おまえのことを『何てかわいい!』と言うだろうよ!」する
とモナがそれを叱るように言いました。

「リアズ! それじゃ慰めにならないでしょう。」それをお母
さんがたしなめて、アニサにたずねました。

「アニサちゃん、人形芝居をここするのは何故かわかる?」アニサは涙を拭
きながら、ぶっきらぼうに答えました。

「わかんない。」

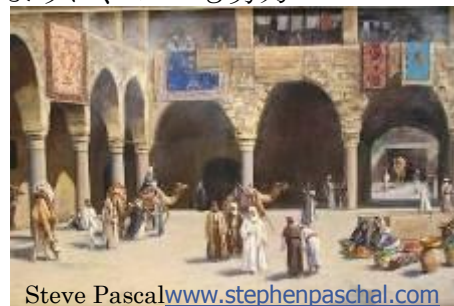
「お年寄りを喜ばせて、寂しくにならないようにするためなのよ。」とお母さん
が説明しました。さらに続けて、

「人形芝居は私たちのためじゃなく、お年寄りのためなのよ。奉仕なの。こ
れは、お祈りと同じね。」

シャラが、いたずらっぽく言いました。

「だから、間違えても笑われたとしても、お年寄りが喜べば大成功。」みんな
笑ってしまいました。アニサもくすくす笑い出しました。

「アブドル・バハは、周りの人たちを喜ばせるように、いつも努力
されていたのよ。」とお母さんが言いました。



ブドル・バハとアッカの人々。

Steve Pascal www.stephenpaschal.com

「そうだよ。アニサもアブドル・バハのようになりたいだろう？」と、アスマ
が言いました。

「そうね。」と、アニサはうなずきながら、

「アブドル・バハも人形芝居をしたの？」と無邪気にたずねました。

「さあ、どうかしら？でもアブドル・バハは3つの大陸を渡り、9つの国の人々
に奉仕する旅をされたのよ。」と、お母さんが微笑みながら言いました。

「そうそう、そうだけど。」と、リアズがじれったそうに飛び跳ねて続けました。

「今はそれを詳しく聞いている場合じゃないよ。お年寄りのみなさんが、おれ
たちの芝居を待ち焦がれているんだ。」

お母さんが言いました。

「さあ、お年寄りのみなさんを喜ばせるように、がんばりましょう。アブドル・
バハが、どうやって世界中の人々を喜ばせたかは、今晚お祈りの後で話すこと
にしましょう。」

「はい。」とアニサが嬉しそうに先ほど投げだした紫の人形を

拾い上げました。そして他の子供たちとステージに向かいました。

人形芝居ではお年寄りたちの涙と笑いが絶えませんでした。それは自分たち

の子や孫を思い出させたのかもしれません。



クリスマスって、なあに？

12月の寒い日の午後、シャラがとても悲しそう

に学校から帰ってきました。お母さんは夕食の

準備、アニサちゃんは床で人形ごっこ、上の子供

たちは食卓で宿題をしていました。

「どうしたの、シャラ？」とモナが宿題の本から見上げるようにシャラの方を見ました。

「私たちのクリスマス・ツリーは何故ないの？プレゼントはどこ？」とシャラは怒っているようにたずねました。リアズが笑いながら、「それはあきらめろよ。」と言いました。

「ところでリアズ、グアムにいる頃、お前、幼稚園生だったろう。その時お前だけクリスマス・プレゼントをもらっただろう。おれたちは誰ももらわなかったのに。」とアスマが言いました。

「覚えているわ！」とモナが答えて、続けました。

「先生から聞いてクリスマス・ストッキングを飾るんだと言っていたのよね。サンタがその中にプレゼントをくれると言ってね。みんな笑ってしまったけど、クリスマスが来たら、本当にその中におもちゃが入っていたのよね！」



「そうだった。」とアスマが言いました。さらに続けて、「みんな誰も何ももらわなかったから不公平だと思ったけど、『信じることへのごほうび』とお母さんが言ったんだよ。」

これを聞いてアニサが急に興味を持ち始めました。

「プレゼント！クリスマス・ツリー！アニサも欲しい。」

お母さんが夕食の準備を止めて子供たちのところに来て言いました。

「また、このことを話す時期が来たのね。」とため息をつきながら続けました。

「たしかに、たくさんの友達がクリスマス・ツリーやプレゼントをもらっているのを知っているわ。」

「当たり前さ、みんなだよ！」と、リアズが激しく答えました。

「だったら、リアズ、アニサにクリスマスのことを説明してくれる？」とお母さんが言うと、リアズは首をすくめながら、

「イエス・キリストの誕生日のことだよ。」

「そうね、その通り、リアズ。ところでアニサ、イエス・キリストが誰なのかわかる？」

「うん、神様から来た偉い先生でしょう。」と、アニサがちょっと威張って答えました。

「そうなの！」とお母さんが答えて、続けました。



「キリスト^{きょうと}教徒はクリスマスがキリストの^{たんじょう}誕生日だ^しと知っているのよ。^{せかいじゅう}世界中
でキリストが^う生まれた日からの^{つか}カレンダーを使っているのよ。キリストが
生まれた^{とし}年から^{かぞ}数えて^{ねんごう}年号を^き決めているの。A.D. とはラテン語^ごでキリスト
誕生^{たんじょう}の年^{とし}という^{いみ}意味なの。神^{かみ}の愛^{あい}の教え^{おし}が^{じんるい}人類

にプレゼントされたことから、キリスト^{きょうと}教徒がプ
レゼントをするようになったの。」

シャラがやった^いと言わ^いんばかりに、

「ほらね！^{わたし}だったら私^{わたし}たちもクリスマスにプ

レゼントを^まもらいましょうよ...あつ、ちょっと^ま待って。クリスマス・ツリーは

キリストの^{たんじょう}誕生^{なん}と何^{かんけい}の関係^{かんけい}があるの？」

「あれ！」とアスマが^い言いました。「^{いま}今の^{しつもん}質問^{しつもん}ではプレゼントを^いもらえないこ
とになって^いしまうぞ。」

お母^{かあ}さんが^{ほほえ}微笑^{ほほえ}みながら^い言いました。

「^{しつもん}いい^{しつもん}質問^{しつもん}ね、シャラ。キリストが^う生まれた^うのはどこ^うなの？」

「イスラエル^いでしょ。」とモナが^{そくざ}即座^{こた}に^{こた}答えました。

「^{かあ}そうよ。」お母^{かあ}さんが^{つづ}続けて、「イスラエルの^{しゃしん}写真^みを見た^いことある？^いどんな
^{ところ}所^{ところ}かわかる？^きクリスマス・ツリーの^はような^は木^はが生^はえている？」

「^{さばく}いいえ、そこは^{さばく}砂漠^{さばく}でしょう。」とモナが^{こた}答えました。

「^{すな}そうだよ。^{いし}砂^{いし}と石^{いし}ころ^{いし}だらけだよ。」とアスマも^{おな}同じ^{おな}ように^{こた}答えました。





お母さんが続けました。

「クリスマス・ツリーの考えはヨーロッパからのもので、
そこでキリスト教が栄えたのよ。キリスト教よりずっと前の宗教にあった
のよ。ふつうの木は冬には葉っぱがなくなって枯れたようになり、春になって
緑を取り戻すでしょ。でもクリスマス・ツリーとなる、もみの木は一年中緑
のままなの。この木は神がいつも人類を愛するシンボルとして、いつ
も新鮮で生き生きとしているのよ。クリスマス・ツリーのとっぺんの星
は、3人の賢者を導いたとされる星なの。賢者はゾロアスター教徒で、
彼らの聖なる本に予言された、キリストを探すためにペルシャ（今の
イラン）からやって来たの。それでマリアとジョセフを探し当てたの
よ。」



「イエス・キリストの両親だよ！」とリアズが付け加えました。

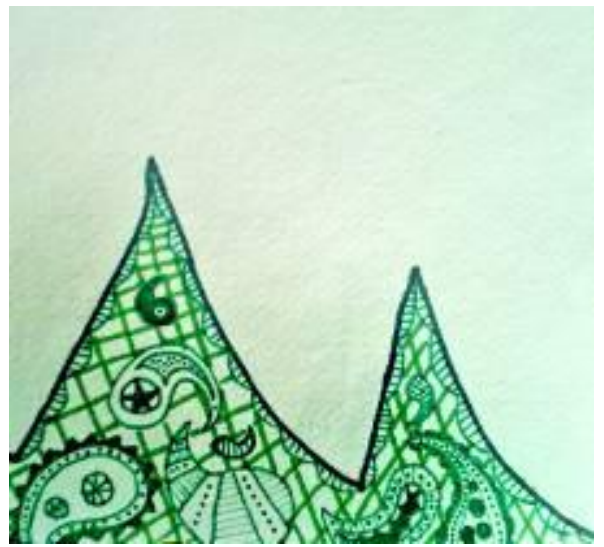
お母さんが続けました。「賢者は赤ん坊のイエスに金や宝物をあげたのよ。」

「だからキリスト教徒はクリスマス・ツリーの足元にプレゼントを置くんだ
よ。」とアスマが説明しました。

シャラが大声で、「わかった！だったら、うちのクリスマス・ツリーはどこな
の？プレゼントはもらえるの？」と叫びました。みんな笑ってしまいました。

お母さんが微笑みながら続けました。

「^{わたし}私たちはキリストが^{かみ}神の^{けんじしゃ}顕示者と^{しん}信じて
いるわ。^{かみ}神が^{おく}送られた^{いだい}偉大な^{せんせい}先生としてね。^{ほか}他
にも^{せんせい}先生がいらっしゃるけど、それは^{だれ}誰かし
ら？」



^{こども}子供たちは、^{くちぐち}みんな口々に^{こた}答えました。

「^{しゃかさま}お釈迦様、^{モーゼ}モーゼ...^{ゾロアスター}ゾロアスター...^{モハメッド}モハメッド...^{アブラハム}アブラハム...^{バハオラ}バハオラ...
バブ。」

「^{そう}よ、」お母さんが^{つづ}続けて、「^{それ}じゃ^{ぜんぶ}全部の^{せんせい}先生たちの^{たんじょうび}誕生日に^き木や^{プレゼント}プレゼントを^{ようい}用意するわけ？」

「^{それ}って、^{いい}いいんじゃない？」とリアズが言いました。

「^{おれ}のお^{づか}小遣いでは^た足りないぞ！」と^{けいさんじょうず}計算上手のアスマが言いました。

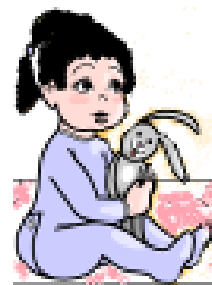
「^{わたし}私も^{かあ}そうなのよ。」と、お母さんが^{さんせい}賛成しました。「^{いだい}偉大な^{せんせい}先生が^{おく}送られた
^ひ日は、^{こころ}心を^{きよ}清らかにして^{かみさま}神様や^{せんせい}先生を^{ふか}深く^{おも}思うときなので、『^{わたし}私』、『^{わたし}私』と^{じぶん}自分
のことだけ^{かんが}考えて^ほプレゼントを^ほ欲しがるのはだめです。」

「^{だから}だから」と、^い言いながらお母さんが^し締めくくりました。「^{クリスマス}クリスマスは、お
^{いの}祈りをして^{ほか}キリストや^{いだい}他の^{せんせい}偉大な^{おく}先生たちを^{かみさま}送られた^{かんしゃ}神様に^ひ感謝する日なの。
^{プレゼント}プレゼントの^{こうかん}交換は^{アヤミ}アヤミ・ハで^{しましょ}しましょう。アヤミ・ハの^{にちかん}4日間は^{わたし}私たちが
^{たの}楽しむように^{かみさま}神様が^{おく}送られた^ひ日なのだから。」

「^{ほら}ほら、^い言っただろ、^{シャラ}シャラ！」とリアズが言いました。

「大丈夫よ、シャラ、アヤミ・ハはすぐよ。2月26日からよ。3月1日までの4日間よ。クリスマスはたった一日だけだね。」と、モナが慰めるように言いました。「やったー！アヤミ・ハ！」と子供たちがみんな叫びました。

シャラはため息をつきながらカバンから本を取り出しました。そして上の子供たちと一緒に宿題を始めました。お母さんは夕食の準備に戻り、アニサは人形ごっこを続けました。



クイズ

1. アブドル・バハが^{おし}教えられた^{わたし}私たちの^{ぎむ}義務とは何^{なん}でしょうか？

2. ^{ひと}人の世^よを何^{なに}に^か変えるべきでしょうか？

3. ^{ろうじん}老人ホームで^{こども}子供たちは何^{なに}をしようとしていましたか？

4. クリスマスでは^{だれ}誰の^{たんじょう}誕生^{いわ}を祝うのでしょうか？

5. キリストはどこで^う生まれたのでしょうか？

6. クリスマスで^{おく}贈り物^{もの}をするのはなぜでしょうか？

7. クリスマス・ツリーのてっぺんに^{ほし}星があるのはなぜでしょうか？

8. キリストが^う生まれたのは何^{なんねんまえ}年前^{らいねん}でしょうか？（ヒント来^{なんねん}年は何^{なんねん}年^{なんねん}でしょうか）

9. ^{かみ}神の^{けんじしゃ}顕示者^{なまえ}の名前をいくつかあげましょう。

どうでしたか？^{ぜんぶ}全部^{こた}答えられましたか？



^{こた}答えは^{ほごしや}保護者の^{はなし}ページのお話にあります。

あやつり人形にんぎょうの作り方つくかた

ざいりょう 材料

けいと
*毛糸

もぞうし だい まい しょう まい
*模造紙大1枚、小1枚

*はさみ

わ ばし ほん
*割り箸1本

つよ いと
*強い糸3本、1本30cmくらいの長さなが

にんぎょう め
*人形の目になるものならなんでもつけ（のり付けできるもの）

あか けいと くち
*赤い毛糸（口になる）

つくかた 作り方

けいと たま つく
毛糸の玉を作る

つつ もぞうし ま なか けいと かい
*筒にした模造紙の真ん中に毛糸を100回ぐらい

ま
巻きつけ抜き取る。

わ けいと うえ ほう ほん けいと しば たま ちゅうしん
*輪になった毛糸の上の方を1本の毛糸で縛る。玉の中心になる。

した ほう き かたち
*下の方をはさみで切ってボールの形にする

もぞうし だい どうたい もぞうし しょう
*これを模造紙大ですると胴体ができる。模造紙小で

すると頭あたまができる。



て あしつく
手と足作り

* 胴体と頭 の中心 を 2 本の毛糸でつないで、首にする。

* 毛糸 3 本の三つ網で両手を作り、真ん中を首に結ぶ。1 組 2 本の毛糸 3 組を

み あみ りょうあし つく ま なか
三つ網にして両足 を作り、真ん中を胴体に結ぶ。

* 割り箸を割って十字を作り、真ん中を毛糸でしっかり縛る。

* 真ん中から強い糸 1 本を頭 につなげる。

* 右端から強い糸 1 本で右手と右足につなげる。

* 左端 から強い糸 1 本で左手と左足 につなげる。

* 目と口をのり付けする。

* 糸が繋がれていない割り箸の方を持って人形 をおどらせてみる！

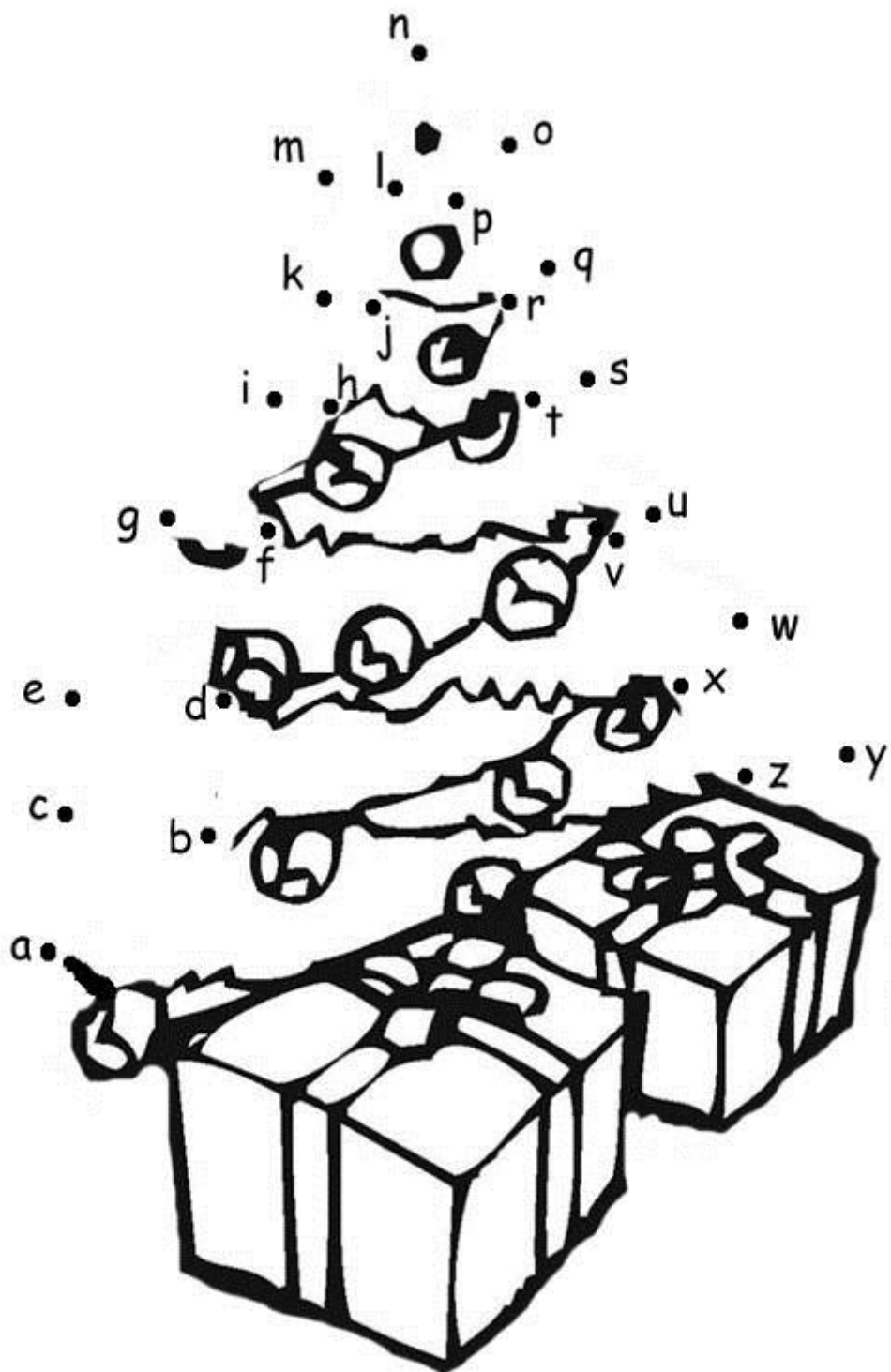


ぬり絵

a から b へ....

b から c へ....

点をつなげて絵を完成してみましょう？ 木のてっぺんにきれいな星を作っ
てね！



みんなの^{しゃしん}写真





保護者のページ

今回のテーマは奉仕です。私たちのこの世での人生の目的は、精神的に成長することと奉仕することであると、バハオラは教えておられます。事実どの宗教も奉仕が教えの基本となっています。現代社会では、人々はこの教えを忘れていているように思われます。子供たちが学校で一生懸命勉強するのは、成人して人の役に立つように医者、学校の先生、お百姓さんなどになって働くのだということをお子たちに教えましょう。子供が小さい時から、どうやったら人の役に立つよう奉仕できるか、私たち大人がお手本を見せましょう。たとえば先ず御家族や近所の人々から始めてみましょう。

クリスマスが世界中で莫大なビジネスに使われているのは、とても残念なことです。神様がこの世にキリストを送られた本当の意味を忘れていているからです。クリスマスをお子とお祝いするのであれば、意義あるものとしましょう。それには先ずキリストがこの世に生まれた物語とその意味をお子たちに説明すべきです。それからもっと大事なことはクリスマスの精神はもらう気持ちではなく、あげる気持ちを持つことにあるという説明が必要です。お子たちには自分より先ず家族や友達にプレゼントを作ったりあげたりするように励ましましょう。友達や知らない人にでも「人の世を神の世と変えるまで」一生懸命奉仕するように励ましましょう。



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。
送り先 vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp

ひるの星

N o . 244

2010年12月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

<http://www.bahaijpn.com/daystar.htm>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 F A X：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、マクティア・理恵、原なお

協力

物語：平原ルアナ

和訳：平原静志

写真：小島えり子、安岡なお子、平原ルアナ

絵：ステイヴン・パスカル、ラリー・カーティス、バーバラ・キャスターライン、平
原ルアナ、サナ・マジズーブ、ダリル・モード

テクニカル・アドバイザー：尊田望

監修：平野祐一